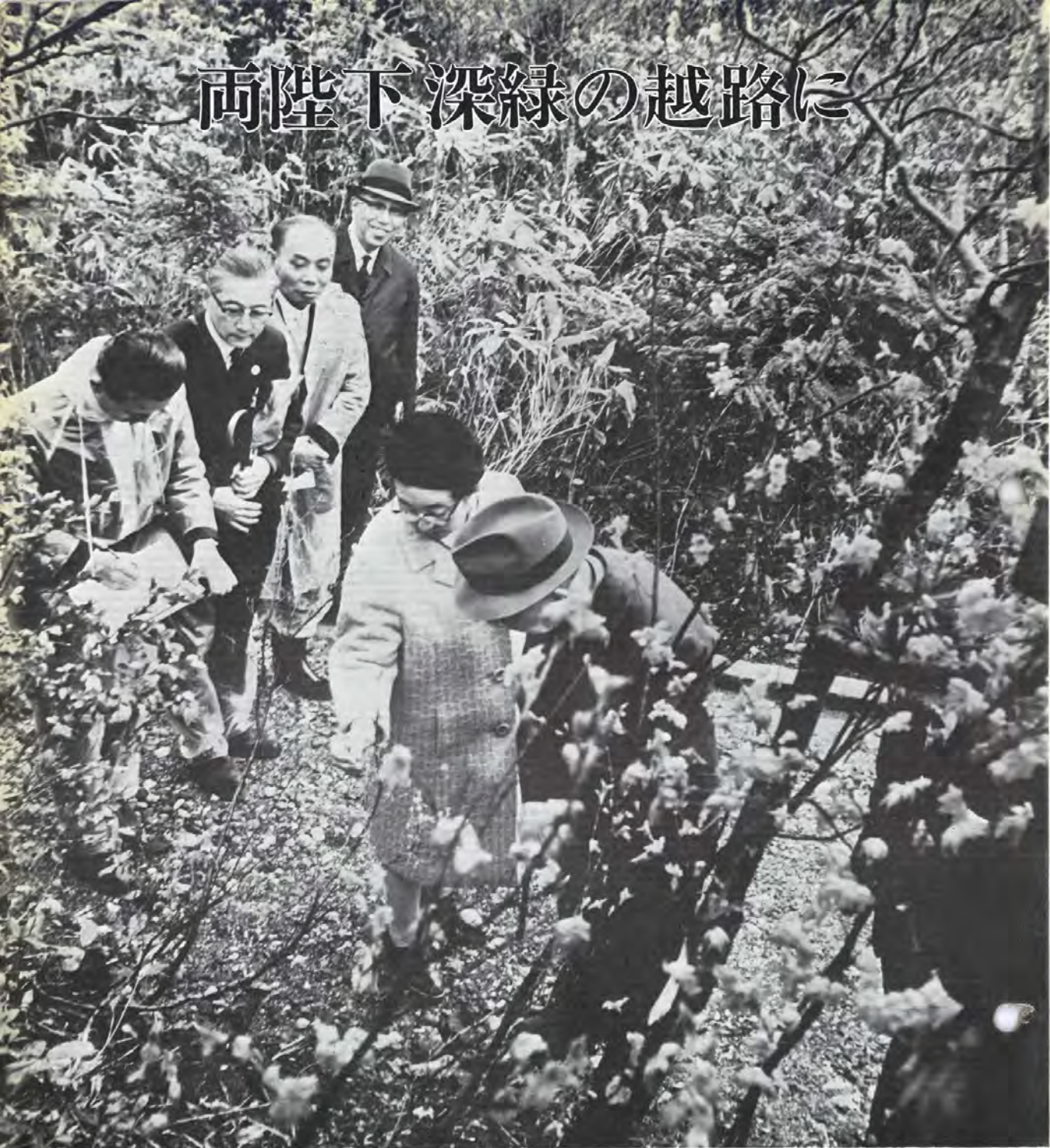


両陛下 深緑の越路に



富山国体以来

十一年ぶり

天皇、皇后両陛下には砺波市頼成で行なわれた「第二十回全国植樹祭」にご出席のため、五月二十四日午後三時五十四分、国鉄泊駅に特別列車でお着きになりました。

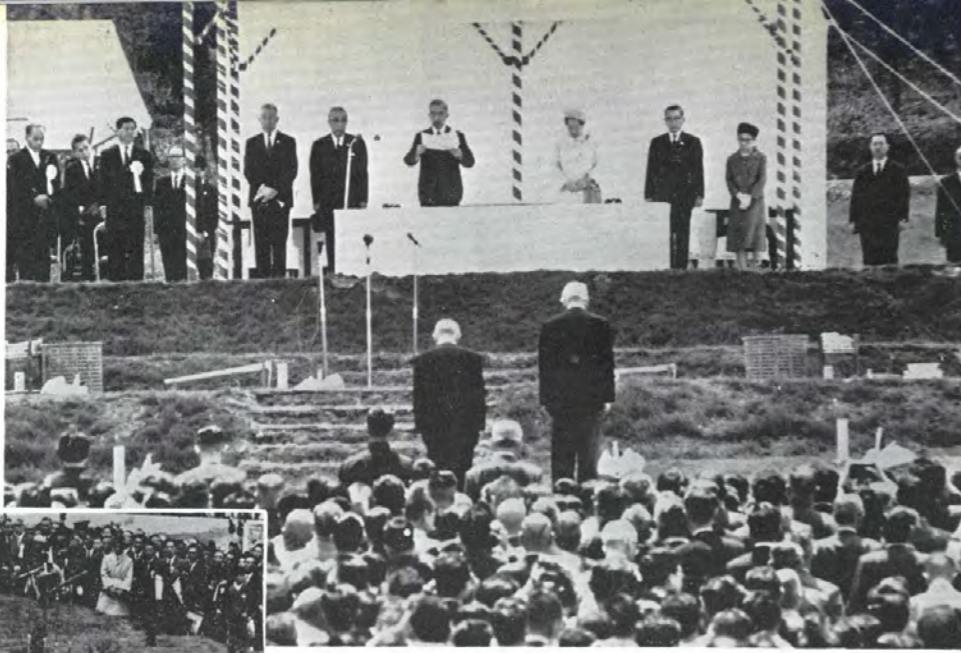
両陛下がおそろいでおいでになったのは、三十三年の富山国体以来十一年ぶりのこと。元気なお姿でにこやかに県民の歓迎にこたえられ、二十九日まで六日間におわたって富山県の発展ぶりをご覧いただきました。

特に生物学者としての天皇陛下は心待ちにされていた立山においでになり、熱心に亜高山植物をご観察され、いろいろとご下問されました。

(写真は、亜高山植物を熱心にご観察される両陛下。立山大観台で)

五月二十六日

第三日



▲全国植樹祭で今年からはじめて「おことば」をおのべになった天皇陛下
(砺波市頼成で)



▲吉田知事も心をこめてしっかりと植樹



▼ひと目、両陛下をと、日の丸で埋まった沿道
(井波町で)



▲ご少憩のため、芹谷山千光寺にお立ち寄りになる両陛下

▲200年の伝統をもつ井波木彫の実技をご覧になる両陛下
(井波町総合社会福祉センターで)



▼近代織機のウオーター・ジェットルームの説明をおききになる両陛下
(細川機業音杉工場で)



▲六神丸の製造工程をご覧になる両陛下
(広貫堂で)

五月二十五日

第二日



五月二十四日

▲国鉄泊駅におききになり、富山県に第一歩をしるされる両陛下



▲「おからだを大切に…」と老人を励まされる両陛下
(県立流杉老人ホーム特別養護室で)

▼2500年前に繁茂していた樹令1200年の樹根をご覧になる両陛下
(魚津埋没林博物館で)

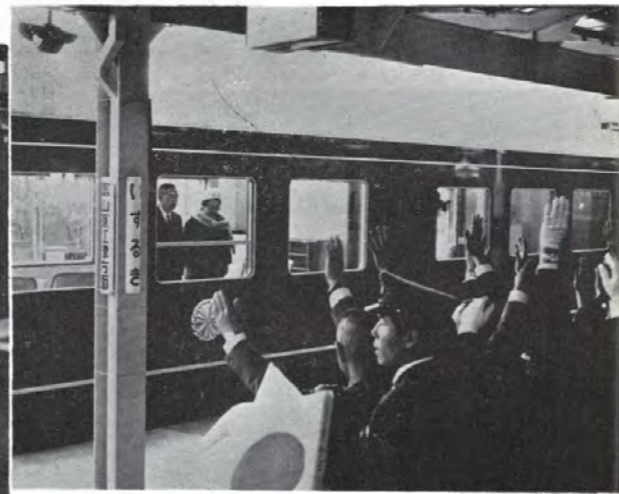




▲言語障害児をお励ましになる両陛下 (小矢部市立石動小学校言語障害児治療教室で)



▼アルミサッシの組立工程を熱心にご覧になる両陛下 (三協アルミで)



▲特別列車から奉迎者におこたえになる両陛下 (国鉄石動駅で)



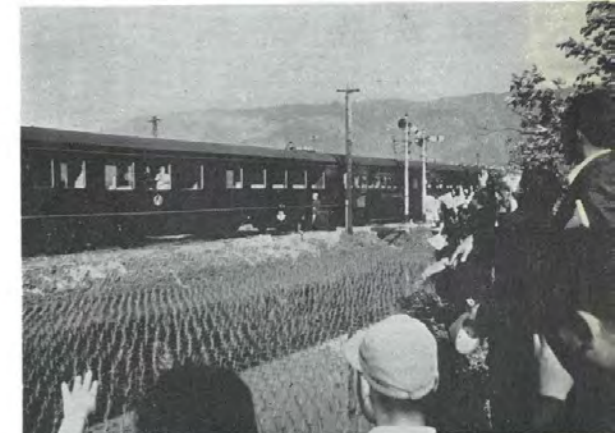
▶お疲れのようすもなく元気な両陛下 (国鉄富山駅で)
▲「富山県の産業と文化展」で伝統工芸品を興味深くご覧になる両陛下 (富山県民会館で)



▲みずばしよを満足そうにご覧になる両陛下 (城端町縄が池で)

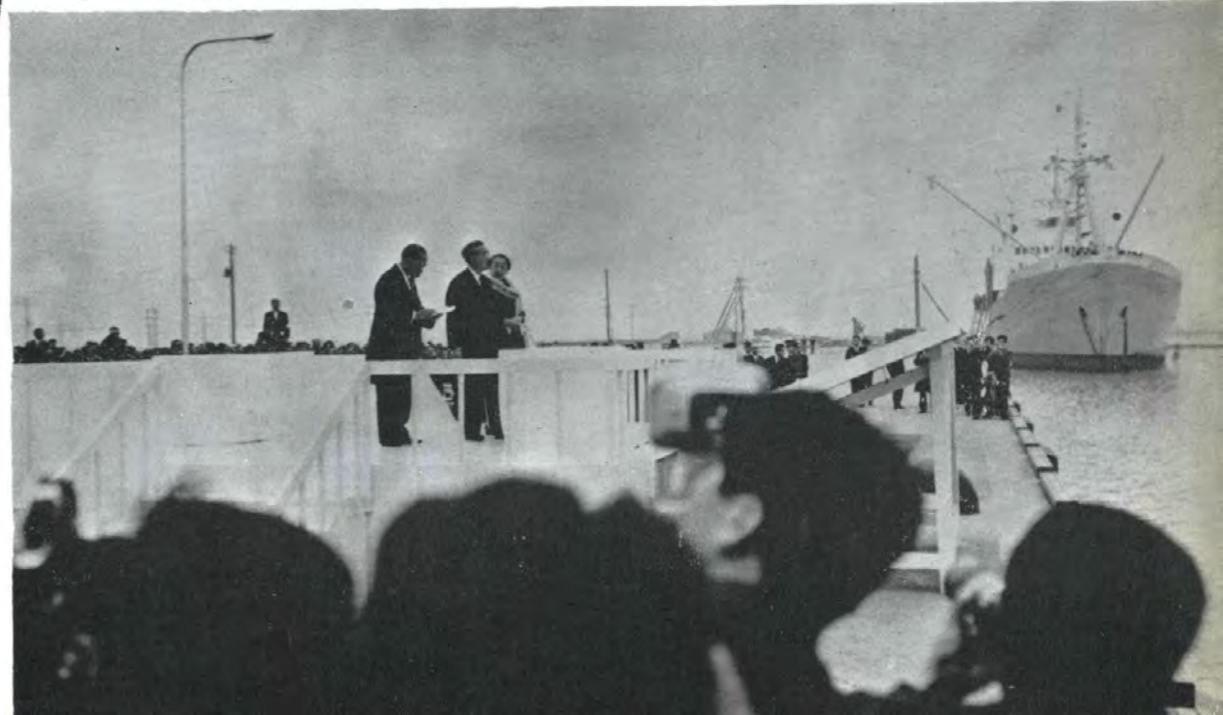
五月二十七日
第四日

▼ご料車のご通過を田ん圃の中から奉迎する人々 (福野町で)



▲ご料車で国鉄高岡駅にお着きになりお泊り所へ向かわれる両陛下

▼ソ連船の入港している富山新港で吉田知事から概要をおきになる両陛下





▲キタゴロウ松の大木をご覧になる両陛下。生物学者として天皇らしく、次々と御下門された。後方は日本一の威容を誇る称名滝（立山・大観台で）

▶雨の中お手插き会場へお着きになった両陛下。ご先導は小林副知事（立山町県林業試験場で）



▲立山からお召電車で電鉄富山駅にお着きになった両陛下

▶林業資料展を熱心にご覧になる両陛下。ご説明は中田農地林務部長（県林業試験場で）

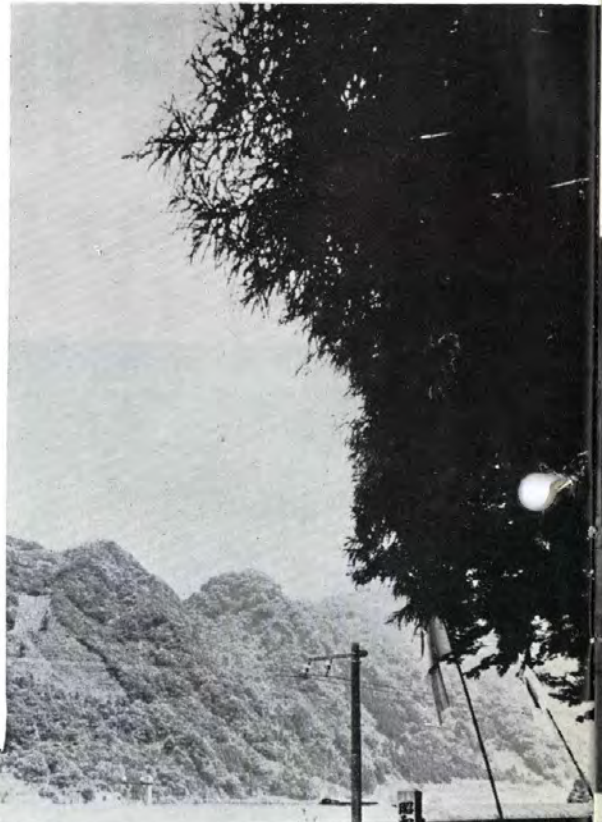


▲農業後継者の実習風景や、牛の放牧をご覧になる両陛下。右は牛のピロプラズマ病を媒介するフタトゲチマダニを顕微鏡でご覧になる両陛下（大山町県立中央農業高校で）



▲セーナー苑生の「結び織り」をご覧になる両陛下（大沢野町精神薄弱者更生施設セーナー苑で）

▶天皇陛下が昭和22年にお手植えになったスギの前で特別列車を奉迎する人々（細入村笹津で）



天皇、皇后両陛下をお送りして

富山県知事 吉田 実



天皇、皇后両陛下には、五月二十四日から本日までの六日間にわたり、昭和四十四年植樹行事にご臨席されるとともに、県内各地をご視察になられ、県民の生活や産業、教育、文化、社会福祉などの諸設を親しくご覧いただきました。

両陛下には、きわめてご多忙なご日程にもかかわらず、終始ご機嫌うるわしくお過ごしなされ、つつがなく本県のご日程を終えられましたことは、県民のみならず、誠に喜びにたえないところであります。

かえりみまずと、昭和二十二年秋、天皇陛下には、荒廃した国土を緑で包もうという思い召しから、婦負郡細入村において、戦後をはじめて杉の木をお手植くださいました。全国植樹祭の発祥地ともいえる本県において、第二十回植樹祭が開催され、両陛下には全国各地から参集

繩が池や、県民がかねてから熱望していた立山へおいでになり、称名滝、高山植物、ライチョウ、カモシカの親子などをご覧いただきましたが、両陛下には、これら本県の自然に対し、このほかご関心をお持ちになり「自然の美や生物をできるだけ害わないよう」とのご感想もいただきました。

終始細かい点までお見逃しになることなくご観察される両陛下のご熱心なご研究態度には、説明者も非常に感激していただきました。

両陛下には、本県をお去りになるにあたり、林業の振興をはじめ、各方面にわたって暖かい励ましのご感想をおよせいただきました。

私は県民各位とともに御心を肝に銘じ、今後、いっそう県勢の発展のため力を尽し、明るい豊かな郷土の建設に邁進したいと存じます。



特別列車の車窓から、奉迎者にやさしくおこたえになる両陛下(国鉄笹津駅で)

昭和四十四年五月二十九日

私は、ここに両陛下に謹んで御礼申し上げますとともに、ますますご健勝にわたらせられんことを心からお祈り申し上げる次第であります。

終りに、このたびの行幸啓につきましても、真心をもって整然と奉迎された県民みなさまならびに関係機関の各位のご協力に対し、深く感謝申し上げます。

県土を緑で包もう



全国植樹祭で12,000人の参列者も1本1本心をこめて大地にしっかりと植えた。これを機会に……

を礎に、築き上げられたものであるといっても、過言ではないでしょう。

緑の全くない砂漠や氷山には、それ自体の歴史はあっても、人類の歴史はありません。

古代エジプトの文化が繁栄したのは、あの広大な砂漠があったためではなく、ナイルの流に沿った緑地帯があったからだとはいわれています。

「文明は暗黒なる森林より生まれる」という諺があるように、森林が生み出す可能性は無限といえます。

先進国、文化国家といわれる国々のすべてが、素晴らしい調和のとれた緑に包まれていた事実をみると、我々の周辺がいかに淋しく感じられ、本当に残念に思えてならないのです。

国土緑化の意味あるもの

戦後の荒廃の中に、いち早く芽生えた

国土緑化運動も、今年は二十年目を迎えました。

言語に絶する困窮と、空白の中にありながら、我々が真先に求めたものは緑であり、美しい自然であったといえます。

一度破壊された自然は、そうたやすく復旧することはできませんでしたが、地道な、長い苦勞の道程の末に、やっと緑化思想の曙光がみえ始めたといえます。

台風があつても、水害という言葉が聞かなくなったのは、国土緑化の旗の下に堂々として歩み続けてきた緑の造成事業が、漸くその効果を発揮し出したと考えられるからです。

森林所有者の方々へ

ご承知のように林業は、約半世紀を要する長期生産業です。

このことは、いま植えたスギの木は決して今世紀内には伐採することができないことを、決定づけています。

人類は、今や月世界に降り立とうとしている時代です。宇宙開発を中心に、科学技術の進歩が目覚しい現在、半世紀を費やす生産業に果して確固たる見通しがあるのだろうか。

森林所有者の方々が造林を行なう上で、おいて、言い知れない不安を覚えるのは、このことではないかと思ひます。

しかし、森林の現況は誠に貧弱で、このまま造林をすすめていっても、昭和九十年における本県の木材自給率は、二十七パーセントにしかありません。

外材についても、伐採地の奥地移行に伴う単価の高騰が考えられ、また、木材需要の一層の増大が見込まれるときだけに、造林に対する不安は全くないと考えられます。

労力や資金のない方は、森林開発公団や造林公社を利用した分取造林を、その他の方は、森林組合への委託造林や、個人造林を、安心してすすめて下さい。

あなたのお庭に緑と鳥を

森林を持たなくとも、庭があつたら庭の緑化をおすすめ下さい。

朝な夕なに小鳥と憩える緑があつたら、こんな楽しいことはありません。

木の実のある庭は、小鳥の天国です。アオキ、マサキ、ナンテン、ガマズミ、ヒサカキ、ヤツデ、ムラサキキブ等、好みの木を選択して、我が家の庭を楽園に仕立てようではありませんか。

ウイーン、フランクフルト、ミュンヘン等の都市は、町の中に森があるのではなく、森の中に町があるときえいわれています。こんな素晴らしい町を、我々はいくつの手で造つてみようではありませんか。(林政課)

文明は森林から

私達の生活から、緑を除外して考えることはできません。人類の歴史は、緑の中に生まれ、緑の中に作られ、緑とともにそのページをまってきたからです。

保健、衛生、風致をはじめ、国土の保全に、水資源のかん養に、豊かな緑は人間社会に潤いと楽しさを与えています。たしかに、文化も経済もすべて緑の大地



一粒一粒でいねいに立山スギの種子をお手播になる両陛下
(立山町吉峰、県林業試験場で)



鍬を手に力強くスギ苗木をお手植えになる皇后さま
お介添えは吉田富山県知事



一本一本に心をこめてお手植えになる天皇陛下
お介添えは石井国土緑化推進委員会会長

頼成・吉峰に 国土緑化の願いをこめて

第20回全国植樹祭は、5月26日雨上りの砺波市頼成で、天皇・皇后両陛下をお迎えして盛大に行なわれました。

会場に、1万2千人の参列者がお迎えする中、天皇・皇后両陛下は緑の国土にとの願いをこめて、立山杉・ボカ杉・増山杉の苗木をそれぞれ1本ずつ大地にしっかりとお手植えになり、植樹の範をお示しになりました。

また、5月28日には、立山町吉峰の県林業試験場で、立山杉の種子をていねいにお手播きになりました。